



以森伝心

理事長 柏原康夫 筆

33

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

森林づくり、森林の恵みの利活用 先進地に聴く

「都市の子どもと上下流連携の森林づくり
～甲賀愛林クラブ(滋賀県甲賀市)～」

森林・林業・木材産業京都会議を開催



森林づくり団体レポート 豊郷公民館(南丹市美山町)

インタビュー 聖護院門跡 門主 宮城泰年氏

芦生の森 2009年10月31日撮影
日新電機株式会社 小池 実千代氏

森林づくり、森林の恵みの利活用

都市の子どもと上下流連携の森林づくり
～甲賀愛林クラブ～

水系の下流にあたる都市に住む子ども達や市民が、上流部の山に入って林業を体験しながら交流するという取り組みが10年以上続けられています。それを行っているのが、滋賀県甲賀市甲賀町の「甲賀愛林クラブ」です。甲賀愛林クラブ会長の西田さん、副会長の杉本さん、甲賀木の駅プロジェクト運営委員長の竹中島さんを訪ね、お話を伺いました。

【甲賀愛林クラブの活動】

滋賀県の南東部に位置する甲賀の「甲賀ヒノキ」は銘木として有名で、美空ひばりさんが横浜に建てた「ひばり御殿」にも使われたそうです。この地域ではもともと1軒あたりの山林は、小規模なものとなっています。市場では手入れがされている人工林の木材と、手入れがされていない人工林の木材とでは大きな価格の差があります。

昭和49年に地域の林業を守っていこうと、サラリーマンを含めた住民らによって甲賀愛林クラブが発足しました。現在は、^{あざ}字単位で14の支部があり、それぞれの会員が地域の山などの手入れを行っています。近年は、木材生産だけでなく、土砂災害の防止や環境保全などの役割を果たすためにも山の手入れは欠かせないと考え、このことへの関心を広げる活動もされています。

【上下流の交流】

甲賀愛林クラブでは長年、琵琶湖・淀川水系下流の都市、大阪府豊中市の「とよなか消費者協会」「NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ21」との交流を行っており、平



皮はぎ間伐の様子

成16年からは滋賀県の協力を得て、豊中市民が甲賀を訪れる「上下流連携の森づくりの集い」が始まりました。この行事は、林業をするような山のない豊中市の子ども達にとっては貴重な体験になることから、子どもの参加を積極的に呼び掛けるようになり、甲賀市の子ども達も一緒に「皮はぎ間伐」を体験したり、シイタケやカブトムシなど森の恵みを採ったり、木を使った工作やイノシシの肉を食べたりするなど、毎年工夫をこらしながら続けられています。

「皮はぎ間伐」では、のこぎりで幹を一周するように切り込みを入れ、そこから樹皮を手前に引っ張ると上に向かって皮がむけていきます。7月という木が水分を多く吸い上げている時期に行われるので、子どもでも気持ち良くはがすことができます。このように樹皮をはがすとやがて立ち枯れ



ヒノキ材を使った板絵教室

林地残材と間伐材の出荷で、 地域で豊かさを回す

—甲賀木の駅プロジェクト—

「木の駅プロジェクト」とは、山で放りっぱなしになっている木（林地残材）や間伐材を「木の駅」に出荷すると、地域で使える地域通貨などと交換してもらえるという仕組みです。高知県のNPO 法人土佐の森・救援隊が始めた取り組みを、丹羽健司氏さん中心となって全国どこでも導入できるようにし、「木の駅プロジェクトポータルサイト」(<http://kinoeki.org/>)では全国30か所での取り組みが紹介されています。

甲賀では、事前に登録した人が林地残材や間伐材を（株）甲賀チップに出荷し、受け取った伝票を「甲賀木の駅運営委員会」に持っていくと地域通貨「モリ券」が支払われるという仕組みになっています。（モリ券との交換は平成26年11月1日～平成27年1月31日まで、モリ



レストハウス 水車にて、コーヒーとモリ券

し、乾燥するので伐倒するのも搬出するのも容易になります。

一方、「上下流連携の森づくりの集い」に参加・協力してきたNPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ21では、毎年豊中市内で環境イベント「とよなか市民環境展」を開催しています。このイベントは金曜日と土曜日の2日間開催し、平日の金曜日は学校行事として団体見学を受け入れるなど、子ども達が多く集まる工夫をしています。平成16年からは甲賀愛林クラブも豊中へ出向いて出展し、丸太切りや、端材を使った木工などで、来場した豊中の子ども達が木に触れる機会を提供しています。これも森林づくりへの関心を広げるための取り組みのひとつとなっています。

【さらなる発展のために】

今年で41年目を迎えた甲賀愛林クラブは、平成26年度「ふれあいの森林づくり」で国土緑化推進機構会長賞を受賞し、平成26年10月に山形県で開催された第38回全国



コーヒー代をモリ券で支払う甲賀愛林クラブ会長の西田さん（右）と、レストハウス水車店長の畑中さん

券使用は平成27年3月20日まで）

きっかけは、会で「もっと何かしていこう」と話していた際、会員がインターネットで見つけた情報をもとに平成25年9月に名古屋で開催された「木の駅会議」に参加し、丹羽健司さんの話を聞いたことでした。補助金をもらって間伐するのではなく、間伐した木を売るという本来の姿をスマートにできること、地域のお店で使える券の発行で、地域が元気になることからぜひ取り組みたいと考えたそうです。また、大原自治振興会の有志と共同で運営委員会を作ることができたおかげで「モリ券」が使える商店の協力が得られ、チラシも各戸配布できました。

「モリ券」が使えるお店の一軒、レストハウス水車店長の畑中さんは、「すでに何人かのお客さんに使っていただいており、とてもありがたい仕組みだ」とおっしゃっていました。山を持っていなくても、この仕組みで森への関心が広がるのではないかと感じておられるそうです。

育樹祭にて表彰されました。また、有志の方と共同で「甲賀木の駅運営委員会」を創設し、平成26年11月から「甲賀木の駅プロジェクト」を開始するなど新しい取り組みにもチャレンジしています。

活動を継続させるために、マンネリ化を防ぐこと、地域に根ざしていること、旅行や研修会などを試みながらコミュニケーションを大切にすることなどに気を付けておられるそうで、これまで積み重ねられた実績とともに、今後も発展させようという姿勢に感銘を受けました。

（チーム以森伝心 井上和彦）

甲賀愛林クラブ

TEL：090-9274-7750（西田会長）

FAX：0748-88-2127（甲賀森林組合甲賀支所）

「甲賀木の駅プロジェクト」は [Facebook](#) で検索

レストハウス 水車

滋賀県甲賀市甲賀町大原市場 17-3

TEL：0748-88-3212

森林を守り育てる多様な立場

森林・林業・木材産業京都会議「モデルフォレスト」

平成 27 年 1 月 26 日、森林、林業、木材、建築、森林保全に取り組む企業や団体などの関係者が一堂に会する第 3 全域から約 400 名のご参加をいただきました。

午前中の全体会議では京都モデルフォレスト運動表彰の知事賞の授与、続いて岡山県西粟倉村の青木秀樹村長による「百年の森林づくりから始まる地域づくり」と題した講演がありました。午後からは「モデルフォレスト運動推進大会」として、表彰状や感謝状の贈呈のほか、森林を守り育てる取り組みについての講演や活動報告等が行われました。

●知事賞

モデルフォレスト運動の推進等に顕著な功績をいただいた次の団体、企業に授与されました。

- 株式会社島津製作所
- 宮津ふるさとの森を育てる協議会

●表彰・感謝状贈呈

多年にわたり継続して活動されている 8 つの活動に対し授与。また、長年の森づくり活動とモデルフォレスト運動の発展に大いに貢献いただいた 2 団体に感謝状を贈呈しました。

●モデルフォレストリーダー認定書授与

森林保全活動を支えリーダーとなる人材を育成するために府立林業大学校で実施されている「森林保全研修」を受講・修了された 15 名に、修了証とモデルフォレストリーダーの認定書を手渡しました。

<理事長賞>

- ワタキューの森づくり
(ワタキューセイモア(株)、井手町豊かな緑と清流を守る協議会)
- 長刀坂国有林ふれあいの森づくり
(オムロン(株)、オムロン労働組合京都支部)
- 綾部上林の森保全活動
(オムロン(株)綾部事業所、オムロン労働組合綾部支部、山内自治会)
- ブリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパンの森づくり
(ブリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパン、藤下氏(土地所有者))
- 三洋化成の森づくり
(三洋化成工業(株)、和束町湯船財産区管理会)
- オムロンの森づくり
(オムロン(株)京阪奈イノベーションセンタ、オムロン労働組合京都支部、井手町豊かな緑と清流を守る協議会)
- MATSUSHIMAの森づくり
(株)マツシマホールディングス)
- 「美山町江和」森林保全活動
(モリカワグループ、南丹市美山町江和区)

<感謝状>

清滝オーナー倶楽部 河鹿の会
京都森林インストラクター会



国を超えて森を通じて学びあう —カナダからモデルフォレストの調査に研究者が来日—

平成 27 年 1 月 7 日、事務局にカナダのサスカチュワン大学からモウリン・リード教授が来訪されました。リー

西山森林整備推進協議会の
活動場所視察



ド教授は、モデルフォレストやコミュニティによる森林管理について研究されており、京都市にある総合地球環境学研究所の研究プロ

ジェクトの招へいで来日されたものです。

翌 8 日は、西山森林整備推進協議会を訪れ、長岡京市内の森林整備の現場を視察。多くの企業やボランティア団体、子どもから年配の方まで幅広い層の皆さんが森の手入れに積極的に関わっておられる様子を聞かれ、「皆様が培われているパートナーシップの深さと強さに大変感銘を受け、元気づけられました」と感想を述べられました。

リード教授には、こうした経験を踏まえ、1 月 26 日に開催された森林・林業・木材産業京都会議モデルフォレスト運動推進大会でもご講演いただきました。

また、3 月 3 日～5 日には、サスカチュワン大学と総

から意見交換 ト運動推進大会」開催

回「森林・林業・木材産業京都会議」が開催され、府内

●ゲストスピーチ

カナダのサスカチュワン大学のモウリーン・リード教授から「モデルフォレスト・ネットワークとプリンスアルバートモデルフォレストにおける取り組み」と題し、モデルフォレスト発祥の地、カナダの事例を伺いました。

●パネルディスカッション

5つの企業・団体より、日頃の活動内容や課題、今後の展望等の報告を受けた後、京都府立大学副学長の田中和博教授をコーディネーターにパネルディスカッションを行い、「継続した活動となるため、役割に責任を持ってもらう」「いかに世代交代をしていくか」など、それぞれの課題について積極的な意見交換が行われました。

パネリスト

森林ボランティアフォレストアージュ 木曾さん、(株)マツシマホールディングス 多和田さん、岩井さん、江村さん、京都府立大学森林ボランティアサークル 森なかま 吉本さん、まいづる竹林整備・竹活用ネットワーク協議会 田畑さん、エスペック(株) 土田さん

参加者の皆さんからは「自分たちと近い団体の話が聞け、より身近に感じられた。今後の活動に活かしたい」「目的の共有が継続した活動につながると感じた」との声が聴かれ、今後の活動のすそ野をさらに広げるうえでの貴重なご意見をいただきました。

合地球環境学研究所地域環境知プロジェクト及び当協会の主催により、日本、カナダの研究者等を対象とした、「地域主体の森林資源管理に関する国際シンポジウム」を開催しました。

一連の動きは、当協会が、国際モデルフォレストネットワークに日本で唯一加盟しているという強みを生かしたもので、森林づくりに参画いただいている多様な皆さんとともに学びあう貴重な機会となりました。今後も、森を核とし、活動を通じ得られた知識や経験を国内外と共有していきます。

国際モデルフォレストネットワークとは

「モデルフォレスト」の概念は、持続可能性、パートナーシップの重視といった理念のもと、多様な主体が参画して行う森林管理の実践活動として、1992年の地球サミットでカナダ政府が提唱。国際ネットワークには現在世界で約60地域、30か国以上が加盟しています。



受賞者、登壇者の皆さんで記念撮影

企業等参加の森林づくり活動紹介

株式会社 島津製作所 (小林さん、福井さん)

—森での学びとあわせた森林づくりを行っています—

京都モデルフォレスト運動に賛同し、南丹市八木町で「島津製作所の森づくり活動」を始めて7年になります。当社の活動の主体は、春と秋に関連会社を含めた社員およびその家族からボランティアを募って間伐や下草刈りといった森林整備活動を行っているほか、専門家を招いての自然観察会や自然と触れ合えるイベントなどを通じて森林に対する理解を促進しています。あと、新入社員研修でも森を利用しています。殆どの新入社員は森林での作業は初体験ですが、森での作業を通じて自分がすべきことや、周囲との協調や気遣いといった、会社の仕事でも必要とされることを学んできただけだと思っています。今後も地元の八木町観光協会や森林組合の意向を尊重しつつ、お手伝いさせていただくことで、より良い環境を子々孫々まで残していければと思います。



広葉樹の間伐作業

森林・林業・木材産業 京都会議での講演



豊郷地区は75世帯、120名が生活する、緑あふれる美しい集落です。豊郷公民館館長の諫本さん、柿迫さん、木村さんを訪ね、同地区で取り組まれている里山と桑畑の再生、都市の子どもたちとの交流のお話を伺いました。



開村式での記念撮影

里山と桑畑を再生し、都市の子どもたちとの交流で地域を元気に 京都「桑田村」再生プロジェクト(南丹市美山町豊郷) 緑の募金による「平成26年度豊かな森林づくり活動支援事業」

豊郷公民館では、地域の良好な環境の維持や住民の福利厚生のための活動、老人クラブや婦人会の運営支援等を行ってきましたが、過疎化により老人クラブや婦人会は活動が停滞し解散することになりました。

そうしたとき、京都市北区のたかつかさ保育園から「環境学習の一環で蚕を飼育しており、蚕のえさとなるクワの木を育ててくれないか」と声がかかり、高齢の住民の中に蚕の飼育経験者が多数おられたので、引き受けることになりました。着実に活動を行っていくため、公民館との協働組織として、比較的若い65歳前後の有志により「京都桑田村」が結成されました。



記念植樹の様子

周辺の山では麓までスギが植林され、日当たりが悪くなっていました。耕作放棄地を整備し、クワを植える圃場をつくりましたが、クワの栽培に日陰は適さないため、麓の人工林のスギを皆伐しました。

皆伐後、山の斜面にできた大きな空間には、緑の募金による「平成26年度豊かな森林づくり活動支援事業助成金」を活用し、クヌギやブナを植栽して里山として再生し、子どもたちがカブトムシなどの生きものと触れ合える環境学習や生物多様性保全の場とすることとしました。

平成26年10月に行われた桑田村開村式には、たかつかさ保育園の園児27名が参加し、クワの木の記念植樹を行いました。その後、豊郷地区で行われた保育園の秋合宿

では、脱穀体験や魚とり、繭玉を使った人形作りなどが行われ、子どもたちは大喜び。住民の皆さんも、子どもたちとの交流を心から楽しめました。

子どもたちの声が響くと、住民の皆さんの顔も生き生きとするのだそうです。2月25日の保育園への親善訪問に当たっては、藁草履やお手玉、竹トンボなどの子どもたちへのお土産を、うきうきして準備されていたとのことでした。

豊郷地区では、クワをきっかけにクマザサやフキを再生する取組も始まっており、経験豊富な昔の若人の知恵を生かして活動が楽しく広がっていくようでした。

今後、冬水田圃^{ふゆみずたんぼ}※も試み、コウノトリなどの様々な生きものが戻って来るような村を目指しているとのことでした。

協力を申し出る団体も増えているそうで、今後の活動の広がりが楽しみです。

(チーム以森伝心 小泉 昭男)

※秋の収穫後から翌春まで田んぼに水を張っておくことで、微生物やドジョウ、小魚など多様な生きものが育つ環境をつくることできる。



クヌギやブナの植樹の様子

今こそ、 自分もその一部である 自然への畏敬の念を。

聖護院門跡 第52世門主 宮城泰年氏

聖護院は京都市左京区にある、修験道・山伏の寺。当協会の理事を務める宮城泰年氏に、長年、大文字山をはじめ、大峰山や葛城山などを歩いて来られたご経験から、次世代に京都の森を残していくために、私たちがやるべきこと、できることなどについてお話をいただきました。



私たちは遊びではなく修行で山を歩くが、自然林は変化に富み、いろんな木があり、種々雑多な動物が棲み、木漏れ日、土の柔らかさ、風の音、雨の匂いなど五感で感じられるものがあることがうれしい。私たちは、このような山や森の中の多様なものの中に「命」を見出し、神性を感じることができる。人は森に対して命に関わるようなやさしさを持ち、木を伐る時も自然と手を合わせてきた。日本人はこれまで山や森をそういう風に捉えてきた。

山を歩くと、最近は山への手入れがされておらず、竹林が拡大していることに気付く。ナラ枯れも見られ、決して最良の状態ではないと思う。昔は人々が自然の中で自然から得た知恵を活用し、自然と仲良くしながら生きていた。今は山の様子も生き方も変わってしまった中でどう調和していくべきなのかとも思う。これからの対応の知恵も自然の中から生み出さなければならない。



登山中の宮城氏

明治22年(1889年)に十津川大水害が起こった時に、人々が「仏罰観面(ぶつばちてきめん)」だと言ったという。明治政府が建築用に大径木をどんどん伐採し、山の神性を軽んじたために、たちまち天災が起きてしまったのだと。当時の人々は人間の力では御しえ

ないものがあると考えていたのだ。

しかし昨年の広島での山崩れによる災害では、人々はもう「仏罰」とは受け取らなかった。山に対しての精神性が失われ、見方が変わってしまった。これは経済優先という姿勢に大きな問題があるが、その考え方は政府だけではなく、豊かさを求め続けてきた我々にもある。人間の力でコントロールできていないものを昔の人は神仏の力と考えたが、いつの間にか大なるものに畏れを持たなくなってしまった現代人は怖いと思う。

日本には素晴らしい木造建築があるが、その材料となる木を育てることも長期的な目で考える必要がある。また、その木の命をとことん使い切るという考え方も大切にしたい。聖護院の建物を解体修理した際、300年前から使っていた柱を東京で家を建てるのに使った。聖護院で使われていた木が、また別のところで生きていると思うとうれしくなる。建築屋さんからは、その土地で育った木はその土地の建物を建てるのに向いていると聞く。その土地の気候や風土に合っているのだろう。食べ物でも同じことで、人間も木も野菜も、皆同じじゃないかという思いを持っている。

戦前の京都市歌の歌い出しは「山麗しく水清く 花の都の名におうて・・・」。上流に豊かな森があってこそ、養分豊富な清らかな水が川に注ぎ、多くの生命を育む。京都の人たちには、森に恵まれた京都であることを認識して森に関わっていただきたい。また森に関する活動の財政的な裏付けとなる「緑の募金」なども充実させていくことも大事なことだと思う。

(チーム以森伝心 井上 和彦)

事務局からのお知らせ

活動報告

●平成 26 年 12 月 7 日 (日)

森林体験ツアー「鴨川の源流域・雲ヶ畑／志明院を訪ねる」 ((公社)国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド事業」)

志明院で鴨川の源水を見学した後、雲ヶ畑コモンズ・結い林業組合の久保常次さん、京都森林インストラクター会の皆さんの案内で雲ヶ畑の森林を散策。久保さんのお話からは、雲ヶ畑や林業を元気にしていきたいという強い思いが感じられました。インストラクター会の皆さんからは、落ち葉の上で冬眠中のバッタや、春を待つ冬芽など、冬ならではの森林の面白さのほか、手入れされている人工林とされていない人工林の違いなどを解説していただきました。



上／森林トレッキングの様子
下／地元の方所有の炭釜見学

●平成 26 年 11 月 30 日 (日)

「伝統文化の森づくり体験」

三井物産株式会社様の社有林（京都市右京区梅ヶ畑）にて、鞍馬の火祭や大文字五山の送り火で使う、コバノミツバツツジやアカマツ等を育成するための森林整備を実施。鞍馬火祭保存会の三宅会長、石田副会長が御指導くださり、秋晴れの空の下、12名の参加者は心地良い汗を流しました。



集合写真

●森林・山村多面的機能発揮対策事業

住民が協力して行う里山林等の保全や森林資源の利活用の取組に対する林野庁の補助事業に、京都府内では平成 26 年度、72 団体が取り組まれました。当協会はこの事業の府内の取扱団体として制度を運営し、説明会や安全講習等を開催しました。

緑の募金 ご協力をお願い

緑の募金は、森林づくりや緑化活動、「緑の少年団」活動、緑や野鳥などを大切にする心を育てるポスターコンクール開催等のために使われています。5 月 31 日まで、春の「緑の募金」強化期間です。皆様のご協力をお願いいたします。

(1) 郵便振替や銀行振込で

いつでも、どこでも、誰でも募金ができます。

1. 郵便振替

00990-1-83253

公益社団法人

京都モデルフォレスト協会

2. 銀行振込 京都銀行府庁出張所

普通 3154305

公益社団法人

京都モデルフォレスト協会

理事長 柏原 康夫

(2) 商品購入や募金箱で

「緑の募金付き商品」を購入すること、各所に設置された「緑の募金箱」に直接募金することで、ご協力いただけます。「緑の募金付き商品」開発・販売や募金箱の設置等、様々な形でご協力いただける店舗様、事業所様も募集しています。

会員企業欄

※当協会の活動趣旨にご協賛いただき、ご支援いただいている企業様の PR 欄です。



飾らない銀行
京都銀行

発行：公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

入会案内資料をご希望の方は、ご連絡ください。

〒604-8424 京都市中京区西ノ京樋ノ口町 123 京都府林業会館 3 階

TEL & FAX 075-823-0170 E-mail kyomori@kyoto-modelforest.jp

URL <http://www.kyoto-modelforest.jp> facebook <https://www.facebook.com/KyotoModelForest>

2015 年 3 月発行

デザイン：自然堂（じねんどう）株式会社